

# 聖書宣教会通信

〒205-0017 東京都羽村市羽西2-9-3 Tel 042 (554) 1710 Fax 042 (554) 5562 振替・00150-6-34971

## 巻頭言

聖書宣教会会長代行 松元保羅

主の御名を賛美申し上げます。

暑い夏の日々が続きましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。9月に入って、新たな思いと祈りをもって、それぞれ主のみわざに与っておられることと思います。いつも私ども聖書宣教会の働きと研修生のためにお祈りとご支援をいただいておりますこと、主にあって感謝しております。

今回の「聖書宣教会通信」の発行が大幅に遅れてしまいましたのは、1997年度において聖書宣教会責任役員会が起こした財政上の問題とその後の処理のために、代表役員と教師会議長が辞任することになり、聖書宣教会は、このような事態の中で主と諸教会の前に悔い改め、新しい出発のために主の導きを求めてきたためです。

1997年度の決算において赤字の見込みとなっていたとき、責任役員の一から赤字補填のために献金の申し出があり、その方法として当時聖書宣教会が旧リーベンゼラ館の売却金として保有していたものを、自らが経営する会社に、短期に貸し付けてくれば、その利子分を献金すると言われました。

貸付決定時には、当事者から貸し付けられたお金がその会社の資金として使われるという明確な説明がなかったこともあり、当時の責任役員会は年度内の赤字を回避することができるという判断をし、貸付をしてしまいました。その後、2000年1月に、会社が事実上

倒産状態に陥りました。その年の債権者会議で、聖書宣教会は債権の7割を放棄することにしました。

当時の責任役員会は事の重大さを認識し、このことを諸教会に報告

し、責任を明らかにすることで話し合っていました。結果、今年3月まで公表しないまま来てしまいました。このこと責任をとって、代表役員であった会長舟喜信、また貸付後責任役員となった教師会議長内田和彦の両氏は、各々、会長、教師会議長を辞任し、他の役員も辞任しました。

長年、聖書宣教会の運営と教育を献身的に担ってこられ、諸教会に仕えてこられた旧責任役員諸氏が貸付の承認をし、赤字を回避しようとしたこと、また貸付金が回収不能になってしまったことを今日まで諸教会に報告しなかったことの結果、諸教会との信頼関係において、また神学教育の指導と信頼において、聖書宣教会は深刻な事態に直面していると考えています。

自らが招いた事態ではありますが、今回の事を通して、憐れみの主が聖書宣教会を深く取り扱ってくださっている事と信じております。私どもはその主のお取り扱いを真摯に受けとめ導きを求めてまいります。そして主のお赦しと諸教会からの信頼回復をいただき、



主の前に新しく歩みださせていただきたいと願っております。

4月に、新責任役員会が発足し、事実の検証と責任の所在、また問題解決および諸教会の信頼回復のために何をなすべきかを検討し、取り組んでまいりました。今後、さらに評議員会および教師会の協力をいただきながら、今回の事態によって浮き彫りにされてきた問題や課題を整理し、一つ一つ解決に向けて取り組んでまいりたいと思います。

私共は、今回の事が単に旧責任役員会による財政的な判断ミスであったとは捉えてはいません。全ての必要を主に訴え、諸教会の祈りと支援によって支えられてきた聖書宣教会が、貸付時のみならず事後処理において、主のみ恐れ、勇気を持って事に当たる信仰的な姿勢を欠いていたのではないかと、改めて事の本質を霊的な問題として捉えるべきことと思わされております。その意味で、今回の事を主の前に告白し、悔い改め、主と主の教会からのお赦しを願いつつ、今、主の御前を歩ませていただいている次第です。

このような中で、新責任役員会は、まず、聖書宣教会の財政全般の見直しに取り組みます。聖書宣教会は主の教会から託された伝道者を教育、養成する機関でありますからこそ、諸教会の祈りと支援のなかで今日まで支えられてまいりました。その意味で財政の規模やその健全なあり方を専門の委員会を設けて検討し提言していただけるように願っております。

また、財産管理や運営面でまだまだ整備されなければならない点が多くあることに気づかされております。そのために運営体制の枠組みや仕組み、また相互チェック機能が健全に働くためにも、規約および教憲教規の見直しをし、体制の改善をはかりたいと願っております。この点では、評議員会の協力をいただきながら取り組んでいきたいと願っています。

さらに、教育および運営の指導体制のあり方も見直しが必要があると考えております。今回の事態が起こる前から、聖書宣

教会創立以来、指導にあたってきてくださった方々がリタイアされ、世代交替による指導体制のあり方を見直す必要があることが指摘されていきました。今回の事態を受けて、この事を早急に取り組み、新しい指導体制を確立しなければならないと考えております。特に教育面では、教師会との協議や協力をはかりながら、どのような指導体制や教育体制が聖書宣教会にとってよりふさわしいかを検討していくこととなると思っております。

さらに、聖書宣教会として今後も主の前に理解を深めていかなければならないことは、今回の事柄が聖書宣教会にとって何であったのか、また何であるのかという点です。聖書宣教会の運営のあり方そのものにどのような誘発因があったのかということです。この点においてはまだ十分かつ必要な認識に至っていないと思っています。その意味で今後も、今回のことは、常に聖書宣教会のあり方と本来の使命を思い起こさせてくれる事として認識していくべきことであるとも考えております。私ども聖書宣教会が、さらに深く主に取り扱われ、新しい歩みをするができるようにお祈りいただければ幸いです。

特に、このような状況のなかに置かれている研修生たちのことを覚えてお祈りいただきたいと思っております。私ども聖書宣教会は、教師会共々、このような事態のなかではありますが、主のお支えをいただきつつ、研修生たちの学びと生活が継続してなされていくように最善を尽くしております。研修生たちが今後も本来の学びに専心できるようにお祈りいただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、急遽会長代行として大きな責任を担うことになりましたこの者のために、ぜひお祈りいただければ幸いです。責任役員会、評議員会、そして教師会と共に、祈りつつ主の導きに従っていきたく願っております。

今後とも、主にあって忍耐と寛容をもって私ども聖書宣教会のためにお祈りくださいますよう心からお願い申し上げます。

内田教師会議長の辞任を受けて、不肖の私が教師会議長代行となりました。元より、このための備えがありませんでしたから何をやらばいいのか手探りの中にいます。ただ、主の恵みと御力によって責任を果たさせていただきたいと願っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

聖書宣教会は、この度のことを経験して、主が私どもに何を教えようとしておられるのか、へりくだって主のみことばに聴き入るものでありたいと願っています。今こそ、聖書神学舎の主によって建てられたことの意味をよく考え、この時代に、なおも主の教会に仕える神学校（研修機関）としての使命を果たして行けるのかどうか、主が今なお聖書神学舎にご期待くださるとすればそれは何なのかを静かに考え、祈りのうちにしばらく足もとを確かめる時とさせていただいています。皆様のお祈りをこいねがう者です。

このような中で、今年は本科生が7名、シニアコースの兄弟たちが2名入会しました。他に、特別研修生として1名が、教会の奉仕から少し離れて研修の時を持っています。この夏は、教師たちの奉仕する研修講座と教会音楽講習会中止しましたが、研修生たちのキャラバン伝道は、例年の通り、日本各地（札幌、郡山、東村山、名古屋、岸和田）でなされました。研修生たちには、伝道実習の貴重な時となり、訪問先の教会の牧師や信徒の皆様との貴重な交わりを通して教室では学べない多くのことを身をもって学んで帰ってきました。ご指導とお祈りを心から感謝いたします。

教師会では、聖書神学舎（本科、教会音楽科）がどのような研修プログラムをカリキュラムや研修生活、教会奉仕などを通して提供して行くのか、「神学舎らしい」教育とは何であるのかを共に考え祈り話し合っています。

ポストモダンといわれるこの時代の影響を教会も知らず知らずのうちに受けている中で、時代が変わっても変わってはならない神学教育

の核になる部分と、今の教会が直面している現実の課題に実践的に対応する柔軟さと知恵とが必要で。そのために、改めて、聖書宣教会・聖書神学舎の教育において、「聖書は誤りのない神のことば」と告白する福音主義の内実を再確認し、多様化した現代の教会に仕える牧師・伝道者の養成に従事することが大切だと思われています。

権力志向、ハウ・ツー重視、結果主義のもてはやされるこの時代に、次の二つのヘブル語のことばが、改めて、私の心を捉えています。

1) イルアト・アドナイ「主を恐れること」

2) シムハト・トーラー「みおしえを喜ぶこと」  
日本的「談合」の精神ではなく、主がほんとうにお喜びになることが何なのか、主のみこころを真に知り、勇気を持ってみこころを行なうために、これらのことが大切です。自分の「靈性」に関心が向かい過ぎる今の時代に、再び、神を恐れる「敬虔」において鍛練され、「敬虔にかなう教え」と「恵み」において成長することを学ばせていただきたいと思います。そのような中で、初めて、現実の諸問題を、聖書的に理解し、判断し、行動出来るのではないかと思います。

今年度から、教会音楽科に二人の教師が与えられました。声楽担当の遠藤かおる先生と、楽理担当の赤坂恵美先生です。来年度、教会音楽科の新しい研修生が与えられるようお祈りください。教会音楽教育のことを考え、その有効性や必要性を論じる時に、教会の今の必要だけに目が向いてしまう傾向が私たちにはあります。教会の将来の必要のために、教会音楽教育が、神学教育の一環として継続的になされて行くように私どもは願っています。

50周年を数年後に迎えようとしている今、主が聖書神学舎を教会の必要のためになおもお用いくださるのであれば、それはどのようにしてであるのか。教会が真に必要としている神学教育とは何であるのかを、謙虚に求め続けて行きたいと思っています。



後列左より、原、高尾、齋藤、菅原、大藪、浜田、中出、荒平  
前列左より、亀井、松田、石川、近藤、石黒、若井、若井、辻村

氏名	奉仕先
<b>(本科) [12名]</b>	
石黒久浩	聖十字架福音教会 (日本同盟基督教団)
大藪宣基	淡輪聖書教会 (福音交友会)
齋藤丈志	みずほ台キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)
菅原豊	白金キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)
高尾利彦	川口福音自由教会 (日本福音自由教会協議会)
浜田献	青森シオンキリスト教会 (日本同盟基督教団)
原敏夫	高浜キリスト共同教会 (日本同盟基督教団)
若井和生	水沢聖書バプテスト教会 (保守バプテスト同盟)
荒平大輔	宮崎北聖書キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)
石川牧子	前橋キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)
近藤千織 (旧姓 山田)	盛岡聖書バプテスト教会 (保守バプテスト同盟)
中出雄三	星の子キリスト福音教会 (日本福音キリスト教会連合)
<b>(シニアコース) [4名]</b>	
松田典子	備北聖約キリスト教会 (日本聖約キリスト教団)
辻村潤治	銚子キリスト教会 (日本同盟基督教団)
若井千鶴子 (旧姓 正木)	水沢聖書バプテスト教会 (保守バプテスト同盟)
亀井正之	富士見ヶ丘キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)

## 卒業・修了生の証しから

### 「からし種ほどの信仰 (ルカ17章5～6節)」

#### 荒平 大輔

数年前まで神を知らなかった者が、こうして神学校卒業の証しを書いている。この学び舎での3年間を振り返れば、確かに早かったと感じるが短かったとは言えない。与えられた恵みの感謝と同時に、しかしこの神学校卒業という事実には驚くばかりである。神様以外に誰がこのようなことを想像しただろうか。私を知る友人以上に私自身が驚かされ、それだけに主の臨在に

恐れを覚える。

人生何度目かの卒業。しかし、今回のはちょっと違う。イエス・キリストを伝えるという仕事に就くわけである。右も左も減び行く魂。もはや待たなすだ。そのような働きを目の前に、今、「信仰」が問われている。確かに、主の導きによってここまで来たと思う。しかし、私には神を信じる信仰が本当にあるのかと考えさせられているのである。何を今さらと思われるかもしれない。けれども問われているのである。「からし種ほどの信仰があったなら」。からし種がとてつもなく大きく感じられる。

\*\*\*\*\* 2005年度 新入会生 \*\*\*\*\*



後列左より、佐野、松本、三輪、田村、三木  
前列左より、横手、岡本、真島、鈴木

氏 名	出身教会	奉仕教会
<b>(本科) [7名]</b>		
岡 本 真 紀	東海キリスト教会 (同盟福音基督教会)	東村山キリスト教会
佐 野 慶	知立キリスト教会 (日本同盟基督教団)	恋が窪キリスト教会
田 村 将	和泉福音教会 (日本同盟基督教団)	和泉福音教会
松 本 民 雄	岸和田東聖書教会 (福音交友会)	上水めぐみキリスト教会
三 木 新	姫路福音教会 (日本基督教団)	長津田キリスト教会
三 輪 従	下小鳥キリスト集会 (単 立)	相原キリスト集会
横 手 有 子	我孫子福音キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)	我孫子福音キリスト教会
<b>(シニアコース) [2名]</b>		
鈴 木 善 雄	東松山福音教会 (日本福音キリスト教会連合)	東松山福音教会
真 島 秀 泰	東京渋谷福音教会 (日本アライアンス・ミッション)	東京渋谷福音教会

..... 新入会生の証しから .....

**松 本 民 雄**

私は1999年、フィリピン留学中に信仰を持ちました。マニラ日本語キリスト教会で信仰生活を送る中で、IIテモテ2:15のみことばが与えられて召命を信じ、マニラの神学校で学びました。卒業後は日本に帰国し、大阪の岸和田東聖書教会で奉仕させて頂きました。主が私を故郷の教会に仕えるよう導いてくださったことは大きな恵みでした。

働きの中で、聖書の深みを知りみことばをまっすぐに解き明かすためには、更に学びが必要と感じるようになりました。そんな時は、使徒18:24~28を示してくださいました。すなわち、主はプリスキラとアクラを用いてアポロ

に教えを受け、その結果アポロは聖書によって更に正確に福音を語るようになったことです。この箇所によって私は導きを確信し、主が道を開いてくださって、聖書宣教会で学び始めました。主が未熟な私を、神と人に仕えるに相応しい器へと整えてくださることを期待しています。

**三 輪 従**

幼いときに救いを与えられましたが、罪に縛られていた私にとって、義認と栄化は信じるのができても聖化されることの約束は信じ難いものでした。そのような中で聞いたある説教により、望みえないときに望みを抱いたアブラハムの契約信仰とは逆に、望みえないときに望みを捨てた私の罪を教えられ、聖書は神のことば

であると実際には信じていなかったということに気づかされました。そのことがきっかけになり、聖書は神のことばであり、唯一絶対の基準であるということは人間にとって何を意味するのか、学びたい、そして伝えたいという思いを与えられるようになりました。

聖書神学舎での学びについては、その必要性を強く感じながらもなかなか決心できませんでした。しかし、4年程前にホセア書の講解説教を聞き、赦されるはずのない者が赦されたのであって、もはや私の人生は私のものではないということを教えられ、決心がつかしました。

## 2005年夏期伝道実習から

2005年度のキャラバン伝道実習を無事に終えることができました。迎えてくださった各教会の皆様、牧師先生、また、背後で祈ってくださった多くの皆様に心から感謝いたします。

今年度、聖書宣教会は大きな試みを受ける年度でした。ゆえに、私たち研修生も普段とは違う、さらに強い団結力を持ってキャラバン実習に臨んでいったように思えます。

今年度は新しい試みとして、キャラバン伝道実習のホームページを作成し、多くの方々に情報提供できるようにしました。その結果、実習中に励ましの言葉をいただいたり、祈り合うこともできました。各チームというよりも、一つのチームとしてキャラバン実習に臨んだ年度であったと感じました。

皆様のお祈りを心から感謝いたします。

キャラバン委員会：(長)柏倉・池田・伊藤・谷口・山尾

### ◆札幌中央福音キリスト教会(北海道)◆

(浅谷泰生・山里将之・田村将・三木新)

札幌中央福音キリスト教会(小澤和男牧師)チームには、田村将兄、三木新兄、山里将之兄、浅谷が7月19日から25日まで参加しました。礼拝出席者20名ほどの家庭的雰囲気教会でした。

私達は教会案内を7000枚ほど中央区に無事に配布しました。家庭集会では浅谷が、祈り会では田村兄が、若者集会では三木兄が証しをしました。礼拝メッセージは山里兄が、子ども集会のメッセージは浅谷がしました。礼拝や集会で「慰め主なる主」「愛の神よ」等を

賛美して主を崇めることができました。

小澤師は早天祈祷会や家庭集会で一人一人の話をよく受け止めて、信徒との人間関係がとても良いという印象を持ちました。牧師は、信徒の話をしっかり聞いて信頼関係を築くことが重要であると思いました。また開拓期の牧会のあり方や都会での伝道の方法についても多くの示唆が与えられました。

私たちを暖かく受け入れてくださいました小澤師ご夫妻及び信徒の方々に厚くお礼を申し上げます。

### ◆郡山聖書バプテスト教会(福島)◆

(中野渡昭子・池田憲生・谷口峰夫・三輪従)

谷口、池田、三輪、中野渡の4名は、7月20日から27日まで、福島県三春町の郡山聖書バプテスト教会(大田尾達三牧師・神学舎20期卒業生)に遣わされました。

町は郡山市に隣接し、人口2万弱で、歴史と伝統のある教育熱心な町です。教会は丘の上チャペルと呼ばれ、20数名の会員と若干名の求道者がいて、交わりは家族的です。



奉仕の内容は説教と証、トラクト戸別配布、雨樋の付け替え、入り口天井のペンキ塗、丘の斜面の草刈りなどで、作業はハードでした。主日と最終日を除き、早朝祈禱会を全員（牧師夫妻と宣教師と7人）で持って一日を始めまし



た。木曜午前の祈禱会では谷口兄が証をしました。宣教師と牧師夫人による英語クラスのキャンプがあり、小学生18名、中学生6名、高校生4名、大人2名がそれぞれ参加し、三輪兄と中野渡が証を担当しました。主日礼拝では、三輪兄の証、池田兄の説教とチームの特別賛美、親しい交わりの時がありました。

### ◆東村山福音自由教会（東京）◆

（山尾研一・大久保直邦・松本民雄・真島秀泰）

私たち「東村山49ers」キャラバン隊の4名は、7月17日（日）から24日（日）の間、東京の東村山福音自由教会サンライズ・チャペルへと派遣されました。今回の特徴は、メンバーの平均年齢が50歳弱であることと、毎日通いで奉仕をすること、の2点です。礼拝に始まり礼拝で終わったキャラバン実習。奉仕内容は、聖日礼拝、週日の家庭集会など諸集会での証しと説教、所沢の特養訪問とこどもフェ



スティバルです。

暑い中でのトラクト配布など健康面での心配もありましたが、主の確かな守りの中、教会員の皆様のサポートにより無事終わることが出来ました。聖書宣教会の先輩で赴任3年目の早坂先生ご一家をはじめ、教会の皆さんには本当に身に余るおもてなしをしていただき、最後には教会全体で神学生と神学校のために祈り、多くの尊い捧げものでもって私たちメンバーを送り出してくださいました。主の祝福と福音宣教のさらなる前進を祈らされた一週間でした。感謝！

### ◆名古屋南福音自由教会（愛知）◆

（熊久保公義・荻野由紀子・佐野慶・横手有子）

名古屋南福音自由教会は、市街地から離れた場所にある、50名ほどの群です。今回のキャラバンでは、主にCSキャンプと中高生集会に携わらせていただきました。

CSキャンプには、教会で実施している親子クラブや英会話教室などを通じて、初めて聖書にふれるお友達がたくさん参加しました。キャンパーの半数以上がノンクリスチャンの中、子供たちは「罪」と「救い」のお話に真剣に耳を傾け、イエス様と共に歩みたいと、素直に応答しました。

中高生集会には、近隣の教会の青年たちも集いました。普段、同世代のクリスチャンとの出会いが少ない彼らにとって、信仰者の仲間と共に、みことばの前に静まるひとは、有意義な時間となりました。

どの集会も、教会員の献身的な働きが背後



にありました。児童・青年伝道には、あらゆる世代の教会員が、しっかりと信仰に結びついている必要があることを、教えられました。

## ◆岸和田聖書教会(大阪)◆

(伊藤太郎・柏倉秀吉・岡本真紀・鈴木善雄)

岸和田は有名なだんじり祭り中心に動いてると言っても過言ではない。その地で岸和田聖書教会は50年の歴史を重ねた。祭りの中心メンバーだった人に信仰が与えられ、その兄弟は地区を一軒ずつ、自分はキリスト者になったから…と挨拶してまわり、ある人からは「がんばれよ」と言ってもらえた。そんな証を聞いて励まされた。

50年の歴史の中に信徒の涙、祈り、決断がある。しかし、それ以上にキリストがこの街を愛し、教会を建てあげてくださったという事を未熟な私達も岸田先生はじめ教会の方々

と味わう事をゆるされたと思う。みことばの奉仕、トラクト配り、子供たち、喜び、心の触れ合いがあった。

僕らが何をしたらろう?と不思議なくらい、みなさん別れを惜しんでくださった。また、帰りに釜ヶ崎に寄った事など。…イエスが行われたことは、ほかにもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書きしるすなら…ヨハネ21:25。

神様、素晴らしい一週間をありがとうございました!



## ●個人情報保護について●

個人情報保護法が施行されました。聖書宣教会は、同法の適用範囲外ですが、個人情報の尊重と保護のために、独自の個人情報保護指針を設けました。今後も情報の注意深い管理に努めてまいります。

なお、卒業・修了生、校友各位には別途アンケートを同封しておりますので、よろしくご協力をお願いします。

## 編集後記

通常3月に発行しております号を休止し、6月発行の号も延期しておりましたが、この度、ようやく通信124号をお届けできますことを主に感謝します。

直面しています厳しい現実の中でも、人の思いを越えた主のご主権と主に動かされた人々の奉仕とを目の当たりにさせられて、感謝とともに、主への畏れに満たされています。主の前で自らのありようを整えられてまいりたいと願っています。聖書宣教会の、この秋からの新しい歩みのために一層のお祈りをど

うかよろしく願いいたします。

皆さまの秋の収穫のときが、主にあって祝されますようお祈り申し上げます。(A)

